



平成25年度兵庫県立南但馬自然学校事前説明会を開催！

平成25年4月16日（火）に、本校において事前説明会を開催したところ、63校70名（明石市教育委員会指導主事1名を含む）の先生方にご参加いただきました。



（施設利用の説明を聞く先生方）



（選択①「木から学ぶ」活動）

本校では、平成23・24年度に、「原体験度調査結果の分析と自然学校プログラムの検証」をテーマに調査・研究を進めてきました。原体験とは、「生物や人およびその他の自然物により醸成された事象を、触覚・嗅覚・味覚をはじめとする五官を用いて知覚し、その後の物事事象の認識に影響を及ぼす体験」のことです。具体的には、「海や川など水中にもぐったことがある」という水体験から、土体験、石体験、木体験、草体験、動物体験、火体験、情感体験です。昨年度の利用校には、実際に子どもたちに原体験アンケートの実施に協力してもらいました。その結果から、子どもたちの一番低い原体験が「木体験」で、「生えている木や竹などの立木を切りたおしたことがある」という項目でした。そこで、午前中は、例年の施設案内に加え、本校を何度も利用したことのある先生方を対象に、「木から学ぶ」という新しいアクティビティを提示し、希望された参加者に実際に体験してもらい、自然学校の期間中にも取り入れて頂きたいと考えました。

この活動では、「木を観察してその特徴から、木の高さや樹齢を考え、立木を切り倒し、実際に年輪を調べる原体験を通して、自然に親しむ心情を育てる」ということを大きなねらいとしています。木を切るという体験に終わるのではなく、観察（スケッチ）・年輪等についての考察・確認（検証）等への「知」の学習へとつなげていきたいと考えています。また、1本の大きな立木を子どもたちで協力しながら切り倒すことで、子どもたちが達成感や成就感を味わい、また、木を切った時の跳ね返り（バウンド）や倒れる方向など、身をもって体験することも大きな価値があると思います。そして、「ひのき」なら、ひのきホルダーに、「竹」なら、竹食器づくりや竹ばしづくり、竹クラフト等を行い、伐採した木を後の活動に生かせるよう、有効に使うことも可能です。

閉会の挨拶時に、私が、「…省略。初日には、ほとんどの学校が本校の施設を知るために、『施設散策オリエンテーリング』を実施されています。子どもたちは、班員と協力しながら遊び感覚で楽しそうに取り組んでいますが、この時間に竹を切り倒し、『マイはし』を作るという活動はどうでしょうか。竹食器づくりをしている学校は若干ありますが、購入された竹を使っています。皿にしようと思えば、

太い竹となりますが、箸なら細くてもいいので、たくさんありますし、木より手軽に切り倒して、マイはしづくりのクラフト、そして実際の食事に使えるという関連したプログラムになります。…以下、省略」と言ったからか、下見時や電話での問い合わせで、木や竹を切り倒して、何かを作る活動を取り入れようとしている学校が増えつつあります。当然、ヘルメット着用や指導者の配置等、安全面に対して留意すべきことも多々あると思いますが、少しでも多くの学校が、このような活動を取り入れてくれることを期待しています。

午後からの選択②では、「ロープワーク体験」と「火おこし体験（野外炊事のポイント説明を含む）」に取り組みました。



(選択②「ロープワーク体験」)

「ロープワーク体験」では、「隠れ家づくり」を計画している先生方を対象に、基本となる「巻き結び」と「角しばり」の練習を行いました。短時間でしたが、ブランコを取り付け、童心に返り無邪気に遊んでいました。

「火おこし体験」では、子どもたちでも火をつけることが出来るように二人組になって、「マイギリ式」火おこし器を操作する方法を学んでもらいました。ヒキリ板は、動かないようしっかりと押さえることが必要です。麻ひもをほぐしたもの（鳥の巣）に火種を移して、火が付いた時には、子どもと同様、歓声が沸きました。



(選択②「火おこし体験」)

今回の事前説明会での「ロープワーク体験」や「火おこし体験」で学ばれたコツは、自然学校期間中に大いに活かしていただけるものと思っています。

☆参加された先生方のアンケートより（一部抜粋）☆

- ・自然学校を気軽に考えていた自分が、この説明会で、目的を持ち、事前・事後活動を確実にやり、子どもたちにとって実りの多き自然学校になるよう取り組んでいこうと思います。
- ・ロープワーク体験や伐採体験など、日常しないことの体験活動が新鮮でした。
- ・今回は、「木から学ぶ」の体験に参加しましたが、新しい試みでいろいろなことを知ることができ、また、児童への活動の広がりも考えることができ、良かったです。
- ・ロープワーク体験の中で、子どもたちへの気遣い、心配りと安全に楽しむためのアドバイスが細やかで、とても良かった。本気になって楽しんでいる子どもの姿が浮かんできた。原体験は、心がうずく。また、下記のような意見もあり、来年度以降の課題とします。
- ・ものすごく忙しい時期でもあり、一日中時間をとられてしまうのは、かなり厳しい。学校現場の状況を理解していただいた上でプログラムを組んでいただけるとありがたいです。
- ・2年目以上の学校に対しては「午後のみ」などの日程にすれば、より手厚い助言や学校間調整ができるのではないかと思います。

編集後記

平成25年度の各利用校に、兵庫県立南但馬自然学校の最新の情報を提供しようと考え、この「指導課だより」を作成しました。月1回のペースで発行する予定です。次回からは、自然学校期間中のトピックスになります。お楽しみに！（文責 主任指導主事兼指導課長 北條 勝也）